

平成25年度(平成26年産)麦類作況試験生育状況(古川農試)[3月20日調査結果]

1. 供試品種および耕種概要

・供試品種

	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦	あおばの恋	シラネコムギ ゆきちから

- ・播種期：設定日 10月20日（25年度播種日 10月28日）
- ・播種量：0.9kg/a（ドリル播き，条間25cm）
- ・施肥：尿素燐加安777号
(N : 0.8kg/a, P₂O₅ : 0.8kg/a, K₂O : 0.8kg/a)

- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6kg/a
- ・排水対策：明渠，暗渠及び弾丸暗渠2.0m間隔
- ・ほ場条件：沖積埴壤土 転換初年目（前作水稻）

2. 気象概況[2月中旬～3月中旬](表1、図1)

- ・平均気温は，2月中旬は平年を下回り，2月下旬に平年をやや上回ったものの3月上旬～中旬は再び平年を下回って経過した。
- ・降水量は，2月中旬に平年比158%，3月中旬に平年比287%の多雨(降雪含む)となった。2月下旬は少雨であった。
- ・日照時間は，2月中旬～下旬は平年を上回って経過したが，3月上旬～中旬は少照であった。

表1 気象経過(2/11～3/20)[大崎市古川]

	平均気温(°C)		積算降水量(mm)		積算日照時間(hr)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
2月中旬	-1.1	-1.7	26.0	158%	55.8	110%
2月下旬	1.6	0.3	1.0	6%	50.7	110%
3月上旬	0.2	-2.0	18.0	97%	45.9	87%
3月中旬	2.9	-0.6	64.5	287%	31.0	55%

注1) 平年差(比)はアメダス平年値との比較

3. 生育概況

1) 3月20日現在の生育状況(表2)

- ・播種期前後に降雨が続いたため播種が遅れ，その後の気温も低温傾向で経過したため，越冬後の生育量は平年を大きく下回っている。
- ・大麦，小麦の各品種とも草丈は平年に比べて短く，茎数は平年の7割以下と平年を大きく下回っている。
- ・特に小麦「あおばの恋」と「ゆきちから」で茎数が少ない。
- ・葉数及び幼穂長についても大麦，小麦の各品種ともに前年値及び平年値を下回っており，全般に生育ステージは平年より遅れている。

2) 幼穂分化状況

- ・大麦，小麦とも3月20日現在では幼穂形成始期に達していない。
- ・大麦では間もなく達するものと見込まれるが，平年に比べて大きく遅れている。
- ・小麦も平年に比べて幼穂の分化は遅れている。

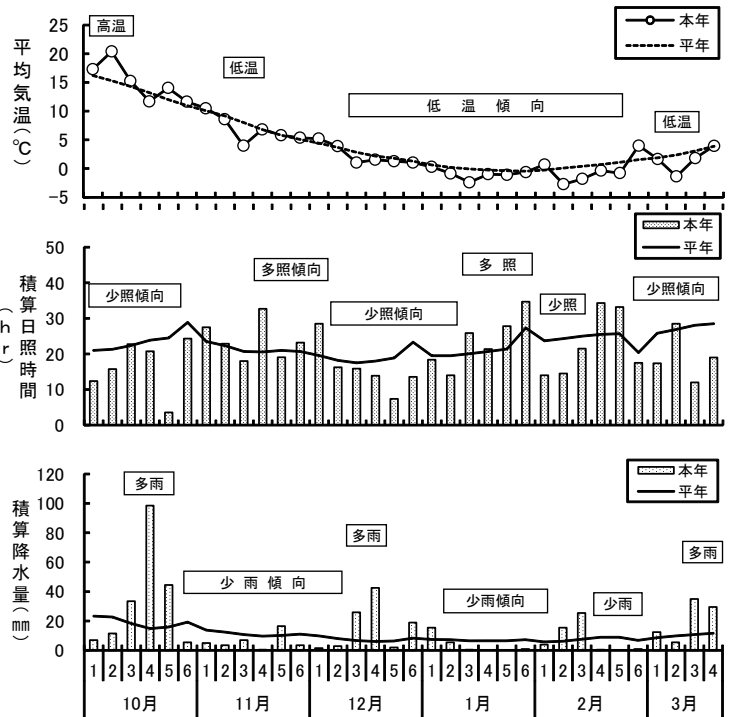


図1 半月別気象経過(大崎市古川)

表2 麦類生育状況(3月20日現在)

品種	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
シュンライ	7.2	81	61	712	72	66	4.9	-1.3	-2.0
ミノリムギ	8.0	77	66	740	76	65	5.1	-1.4	-2.2
あおばの恋	9.4	104	—	301	56	—	4.8	-1.3	—
シラネコムギ	8.8	86	70	704	88	64	5.5	-1.9	-1.9
ゆきちから	8.2	89	74	445	67	38	5.2	-1.3	-1.9

品種	幼穂長			幼穂分化 程度	幼穂形成始期 (月/日)		主穂長 (mm)	茎立期 (月/日)	
	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年	平年		本年	平年
	シュンライ	0.9	-0.9		-1.6	VII後～VIII	—	1/23	4.1
ミノリムギ	0.9	-0.7	-1.2	VII後～VIII	—	2/5	3.9	—	4/5
あおばの恋	0.7	-0.6	—	VI～VII後	—	—	3.3	—	—
シラネコムギ	0.5	-0.3	-0.6	V～VII前	—	3/15	3.7	—	4/11
ゆきちから	0.5	-0.4	-0.6	V～VI	—	3/19	3.7	—	4/15

注1) 平年比(差)は過去5カ年の平均値との比較。 2) あおばの恋は平成22年度から供試のため平年値はない。
 3) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。 4) 茎立期: 主穂長2cmに達した日。

[参考] 麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略。
 また、厳密にはVII期は前・後期に、IX期は前・中・後期に区分されるが省略。

平成25年度(平成26年産) 麦類生育調査ほ生育状況〔3月20日調査結果〕

表3 耕種概要

担当普及 センター	品種名	実施場所	畑転換 年数	排水対策 (明渠、暗渠等)	播種期 (月/日)	播種量 (kg/a)	播種様式	条間 (cm)
大河原	シュンライ	大河原町	15	暗渠	11/12	1.0	ドリル播き	29.0
	ミノリムギ	大河原町	15	暗渠	11/15	1.0	ドリル播き	29.5
仙台	シュンライ	大和町	12	明渠、暗渠、弾丸暗渠	10/20	1.0	ドリル播き	27.8
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	3	明渠、暗渠	11/9	1.0	ドリル播き	12.5
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	1	明渠、弾丸暗渠	11/7	1.5	ドリル播き	20.3
	ゆきちから	涌谷町	1	明渠、弾丸暗渠	11/6	1.3	ドリル播き	24.4
登米	あおばの恋	登米市豊里町	7	暗渠	11/13	1.4	ドリル播き	20.0
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	明渠、暗渠、弾丸暗渠	10/29	1.0	ドリル播き	26.0
	ミノリムギ	石巻市桃生町	1	明渠、暗渠	10/30	1.0	ドリル播き	30.0
	シラネコムギ	石巻市小船越	10年以上	なし	10/10	0.8	ドリル播き	22.5

表4 生育状況(3月20日現在)

担当普及 センター	品種名	実施場所	播種期 (月/日)	出芽 良否	草丈			茎数			幼穂長 (mm)
					本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	
大河原	シュンライ	大河原町	11/12	良	6.7	81	57	463	53	58	0.6
	ミノリムギ	大河原町	11/15	良	6.7	91	59	353	62	60	0.5
仙台	シュンライ	大和町	10/20	良	11.4	—	—	665	—	—	2.9
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	11/9	やや不良	10.6	70	78	127	13	13	0.1
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	11/7	良	9.7	145	93	766	280	135	0.2
	ゆきちから	涌谷町	11/6	良	9.4	116	94	592	225	132	0.2
登米	あおぼの恋	登米市豊里町	11/13	やや不良	8.8	97	—	138	27	—	0.3
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	10/29	良	8.8	96	70	385	51	39	1.3
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/30	良	11.5	143	109	500	96	71	1.1
	シラネコムギ	石巻市小船越	10/10	良	11.0	123	78	1458	88	91	0.7

注1) 出芽良否は達観で判断(良, 中, 不良の3段階を基本とする)。

2) 平年比は過去5カ年の平均値との比較。

3) 登米「あおぼの恋」は平成21年から供試のため平年値はない。

4) 仙台「シュンライ」は平成25年度から調査地点が変更となったため、前年値及び平年値はない。

担当普及センターのコメント

1) 大河原

- 生育は良好だが残雪の影響で生育が停滞し、平年に比べて草丈は低く、茎数は少なく推移している。

2) 仙台

- 茎数は前回(2月)調査時から増えていないが、生育ステージは進み、幼穂形成期後半(穎花分化期)に達している。
- 黄化程度は甚だしく、葉の黄化が進んでいる。
- 残草程度は中程度で小型(草丈5cm程度)のスズメノテッポウ(5~7葉期)が残草しており、ほ場全体に見られる。
- ほ場の一部で白鳥による食害もみられた。

3) 大崎

- 3月6~7日の降雪で、ほ場には3月12日まで積雪があった。
- 3月20日調査(3月19日)時点でほ場の雪は無くなった。
- 生育は緩慢で、分けつは0~1本程度。
- 主茎の幼穂長は0.1mmであり、昨年より生育が遅れている(H25は0.5mm)。第2茎の幼穂は確認されなかった。

4) 美里

- シラネコムギ、ゆきちからともに葉齢は4葉前後で草丈は平年より短い。分けつの発生が盛んで生育は順調だが、生育量は目標より不足している。
- 両品種とも全体として幼穂形成期にはまだ到達していない。

5) 登米

- 播種日が遅く茎数、草丈ともに不足している。
- 個体あたりの分けつ数は0本あるいは1本のもものがほとんどである。
- 調査ほ場以外で、は種の早いほ場では分けつが進んでおり、幼穂形成期始期に入りつつある。

6) 石巻

- シュンライでは、茎数が少なく平年の4割弱にとどまっている。幼穂長は平年より1mm程度短く、生育ステージは遅れている。また、麦の浮き上がりが見られる。
- ミノリムギでは、茎数は平年の7割まで回復したが(前回(2月)調査では平年の4割弱)、幼穂長は平年より0.6mm程度短く、生育ステージは遅れている。
- シラネコムギでは、生育量・生育ステージとも平年並で、生育は良好である。